鳥取駅前太平線再生プロジェクト基本計画

概　要　版

平成２４年７月改訂版

鳥　　取　　市

1．鳥取駅前太平線再生プロジェクトの位置づけ

「鳥取駅前太平線再生プロジェクト」は、平成 20 年度・21 年度の「鳥取駅前・賑わいのまちづくり実証事業」の２カ年の実証事業の成果を踏まえ、人通りの減少が著しい鳥取駅前太平線を、スピード感をもって人が集う魅力的な環境に再生し、中心市街地再生の起爆剤とすることを目的とする。

このプロジェクト実現のために、平成 22 年３月より「鳥取駅前太平線再生プロジェクト検討委員会」において検討を重ね、この度、鳥取駅前太平線に必要な施設整備や推進体制などを盛り込んだ「鳥取駅前太平線再生プロジェクト基本計画」をとりまとめるに至った。

◆中心市街地活性化基本計画

鳥取駅周辺地区は、「まちの顔＝若者や合併地域の人が集まり、ものや情報も行き交う、高度利用を進める、にぎわいのある経済・交流の核」と位置づけられている。

◆鳥取駅周辺地区の商業活性化構想

連担的再生による魅力ある広域交流拠点と連鎖によるにぎわいづくり

☆テーマ：「２核１モールを基軸とした商業活性化の推進」

鳥取駅周辺地区では、商業活性化のため、「２核１モールを基軸とした商業活性化の推進」をテーマに、鳥取大丸を商業メイン核、パレットとっとりを商業サブ核として、２核を１つのモールでつなぎ一体的な商業集積として回遊性の強化を図るため、官民連携により様々な事業に取り組むものとしている。

中心市街地再生（駅周辺再生～街なか再生）の起爆剤として･･･

2．鳥取駅前太平線再生の基本方針

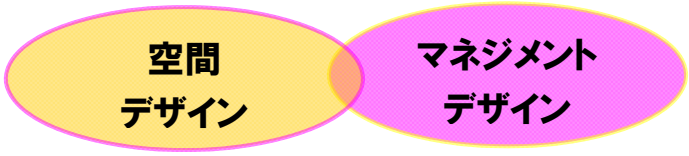
■実現のための基本方針

方針１：「自然に人が集まる」魅力的な空間の創出のため、道路空間の再配分によって人が集える空間を生み出すとともに、人を誘う様々な魅力づくりを官民の共同・連携により進める

「自然に人が集まる」魅力的な空間の創出のため、交通量の減少により余裕のできた４車線道路を対面通行２車線とすることで、人が集える空間づくり、人を誘う様々な魅力づくりに必要な空間を生み出す。減じた２車線分は主に広場空間として、その他バス停、荷捌き停車帯、街路樹、ストリートファニチャー、駐輪場などに活用する。

方針２：賑わいづくりのためのハード・ソフト施策を官民の共同・連携により進める

整備後の日常的な広場の有効活用や維持管理を民間（沿線商業者等）が主体となって行う仕組み（運営管理体制）を構築する。本プロジェクトは、「自然に人が集まる、魅力ある空間」をめざして、民間の創意工夫によるソフト施策（イベントの企画・運営等）と、そのために必要なハード施策（行政が主体となる施設の整備・更新）を同時進行で、官民連携により展開するものである。



官民の共同･連携 ／ ハード･ソフトの一体的推進

官民が共同・連携し、公共（市・県・国）と民間（鳥取大丸、沿線商店街）が一体となって、鳥取の顔となる質の高い空間「自然に人が集まる、魅力ある空間」を創出する。

官民が共同・連携し、まちのハード・ソフト両面にわたる一体的な管理・運営（マネジメント）を実現し、賑わいづくりとまちの魅力を持続的に高める仕組みを導入する。

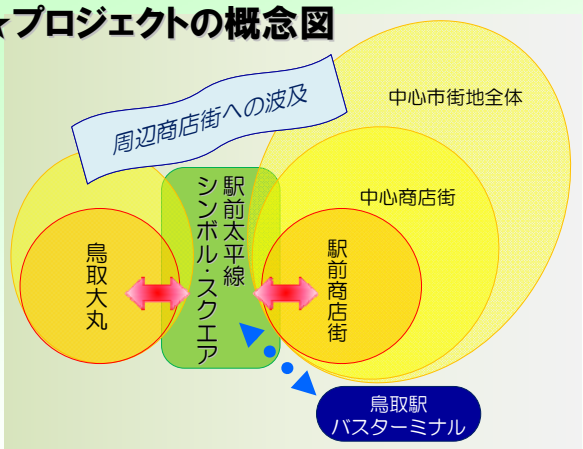
鳥取駅前太平線再生の基本方針概念図

3．プロジェクトの概念

～鳥取駅前のシンボル・スクエア～

「鳥取駅前太平線再生プロジェクト」は、鳥取駅前、鳥取市唯一の百貨店前に**「自然に人が集まる、魅力ある空間＝駅前太平線 シンボル・スクエア」**をつくることで、駅周辺再生、街なか再生の起爆剤とする。

★プロジェクトの概念図



- 芝生広場の整備
- 光溢れる全天候型シェルター
- 芝生広場を活用したオープンカフェ
- 沿線ホテルなどによるオープンカフェ

駅前太平線は、単なる通行のための道路ではなく、鳥取大丸や駅前街区の「前庭空間」であり、人々が集い憩う舞台として整備する。

シンボル・スクエア ＝ 光の庭（アトリウム空間）の創出

駅前太平線 シンボル・スクエアは、鳥取大丸・沿線商店街をつなぐ一体的な賑わい空間演出が必要であるとともに、賑わいづくりのためには天候に左右されない継続的な空間活用が可能であることが求められる。このため、**雨天時でも人が集まることができるとともに、新たなシンボルとなる大屋根（シェルター）を設置したアトリウム空間として整備**する。

■駅前再生のシンボルとして

☆駅前のシンボル＝光溢れる大屋根（シェルター）

●光溢れる洗練されたデザインの新たなシンボル　●いつでも、快適な空間を提供
●鳥取大丸、沿線商店街、前庭空間（道路空間）との一体化

■日常的な集い・ふれあい空間として

☆大丸前に芝生広場

●やさしい午後の日差しの中でのオープンカフェ
●鳥取大丸との一体的空間

■インパクトのある賑わいづくりを目指して

☆休日は歩行者天国に

●バザーやワゴン販売車が並ぶ歩行者天国
●コンサート、ストリートライブ、大道芸、フリーマーケット等人が自然と集まる場所となる

◆鳥取大丸・沿線商店街をつなぐ一体的な賑わいの空間演出が必要
◆賑わいづくりのためには、天候に左右されない継続的な空間活用が必要

これらを実現するために

新たなシンボルとなるとともに、雨天時でも人が集まることのできる大屋根（シェルター）の設置が不可欠

＋

沿線商店への支援

■通りの魅力を向上させる百貨店のリニューアル支援
■空き店舗活用支援（新規投資の呼び込み）
■既存店舗への支援

4．空間計画の概要

駅前太平線は、単なる通行のための道路ではなく、鳥取大丸やサンロード街区の「前庭空間」であり、人々が集い憩う舞台として整備する。

★大丸前に芝生広場を配置

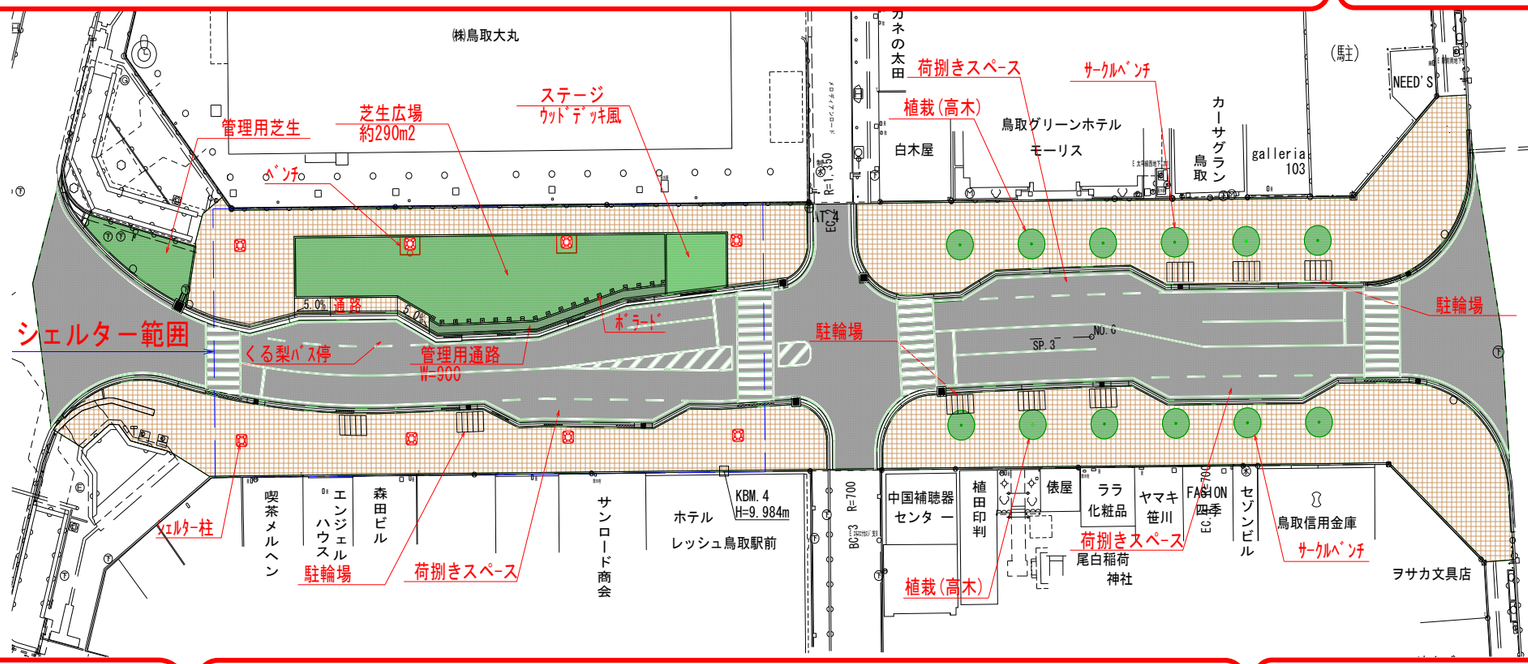
・遊具を置いたキッズパークや、椅子・テーブルを置いたオープンカフェなど様々な活用が可能です。
・冬も緑を保つ維持管理方法・体制を構築します。

※写真は平成 20、21 年実証実験の模様

★雨天時でも人が集まる大屋根を設置

・天候に左右されることなくイベントが楽しめる空間とします。

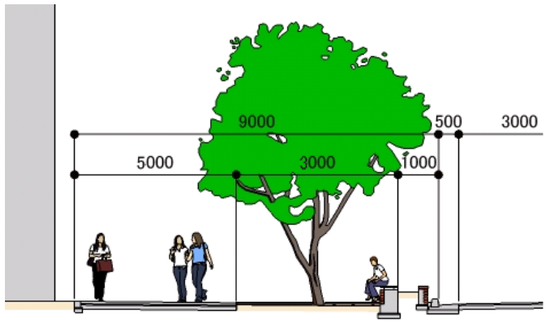
★鳥取駅よりシェルターを望む



★国道 53 号線交差点よりシェルターを望む

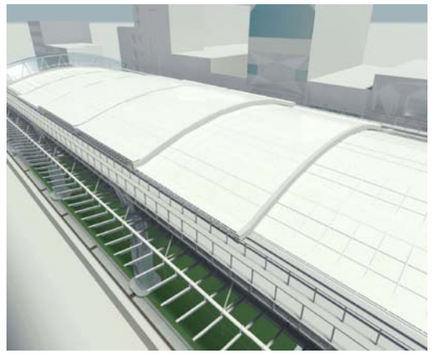
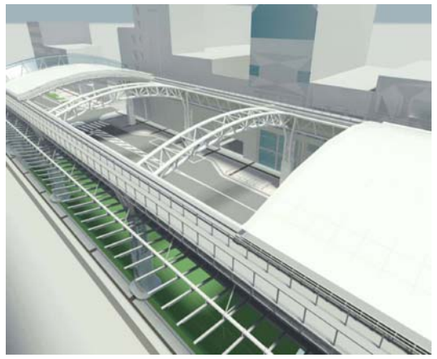
★緑と憩いの歩道空間を創出

・豊かな緑を配置します。
・歩道空間における緑陰の憩い・語らいの場を創出します。



★開閉式シェルター

・屋根は膜構造を採用し、開閉機構を導入する。（↓開閉のイメージです。）

★休日は歩行者天国の実施を検討

・バザーやワゴン販売車が並ぶ歩行者天国。